



# 家庭通信 12月号

2023年11月30日

学校法人 織田学園

おだ認定こども園

落ち葉を拾い集めて遊ぶ姿に冬の訪れを感じます。公園に出かける子どもたちの足取りもしっかりと安定し、それぞれの子もたちが大きくたくましく成長してきた姿を微笑ましく見送るこの頃です。コロナ禍から新たな1年となり年内最後の月となりました。今年1年皆様からの園に対するご理解ご協力を感謝いたします。

さて、先日、恒例のサンマの一本焼きを行いました。サンマを一本そのまま食べるのは年長組だけですが、生のサンマにこだわって豊洲から前日に届いたサンマを園庭の炭火で焼き始めると、小さいクラスの子もたちはその煙の匂いにつられて焼き場の近くまで来て興味津々です。職員から生のサンマと焼いたサンマの違いを見せてもらうと、「目の色がちがう」「口が黄色い」「ツルツルしている」など発見したことを伝えたり、「いい匂い」と食欲をそそられていたり、感想は人それぞれでした。年長組は前日に栄養士から魚の食べ方を教えてもらい、一人で1匹丸ごとのサンマを食すことに挑戦しました。

現在、魚離れが進行しています。これは「子どもが魚を好まない」ことが要因の一つとされています。人間は成長段階において食べものの嗜好が変化しますが、幼い頃に食べた物の記憶はその後の食生活に影響を及ぼすと言われています。ですから、そもそも魚を口にする機会が少なければ、成長を重ねても「魚を食べよう」という選択肢にもくわえられないのではないかと懸念されます。そのため、当園では給食に魚の提供をしたり、今回のようにおいしい焼き魚を食べたりする体験の提供などを通して子どもたちの魚食を豊かにするきっかけになるように期待して力を入れて取り組んでいます。

食べることを大事にしている当園では、旬の物を食す、添加物や農薬の少ない安心な材料で調理するなど今後も子どもたちの将来にわたっての健康に責任を感じながら食育に取り組めます。皆様からも「この食材を子どもがおいしくたべるには？」や「この給食レシピを教えて欲しい」などや「子どもが魚を食べました」など嬉しいご感想などもお寄せください。

サンマを網で焼いている様子を見たひかり組の子もたちは早速サンマ焼きをごっこ遊びで再現していました。これが主体的な学びの一コマです。保育者は環境を整え遊びに参加しながら子どもの気づきや用具の使い方や微細運動を誘発しています。

## 12月のねらい

### <年長>

- 進んで戸外で遊び、十分に身体を動かしたり、ルールのある遊びの面白さを味わったりする。
- 自分なりの目当てやできるよくなりたいことに、繰り返し挑戦し、できるようになったことを喜ぶ。
- 友だちと考えや思いを出し合い協力したり、役割分担したりしながら目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを味わう。

### <年中>

- 健康に過ごすために必要な習慣が分かり、自分から進んで行おうとする。
- 身近な自然に触れ、興味を持ったり取り入れたりして遊ぶ。
- 気の合う友だちと誘い合い、場を作ったり、遊び方を決めたりして、自分たちなりに遊びを進めようとする。
- 色々な友だちと関わり、一緒に遊ぶ中で、相手にも思いや考えがある事を知り、耳を傾けようとする。

### <年少>

- 身の回りのものを丁寧に扱おうとする。
- 保育者や友だちと同じ場で一緒に身体を動かすことを楽しむ。
- 保育者や友だちに自分の気持ちや思っている事を言葉で伝えようとする。
- 色々なものになりきってごっこ遊びを楽しむ。

### <2歳児>

- 保育者や周りの子と一緒に遊ぶ中でイメージを共有しながら遊ぶことを楽しむ。
- 手洗い、着替え、鼻をかむことを一緒にやってみる中で身の回りを清潔に保つ心地よさを感じる。

### <1歳児><0歳児>

0.1歳児は個別のねらいを立てています。